

次回掲載は11月7日

スポニチキャンパス

全国大会2年連続準優勝

大阪成蹊大 フットサル部

▽大阪成蹊大学(大阪市東淀川区) 前身となる高成蹊女子学校を1933年(昭和8)に創設。阪急梅田駅から約20分の好立地でマネジメント学部・教育学部・芸術学部が3学部ある。フットサル部のほか女子陸上競技部が昨年の全日本インカレで総合優勝を飾るなど学内の強化クラブが全国の舞台で活躍を続ける。

三度目の正直で全国を制す。大阪成蹊大のフットサル部は、今年8月末に大阪府岸和田市総合体育館で行われた「第13回全日本大学フットサル大会」で2年連続準優勝。昨年が

柴沼監督の「自信」の準Vなら今年は「悔恨」。柴沼監督はフットサルの最上位ライセンス「(財)日本サッカー協会(JFA)公認フットサルB級」を保有する。知識は深く、指

導力が高い。当然、部員からの信頼も厚い。そこに個々の能力が非常に高い選手が集まっている。だからこそつかみかかった、全国の

追いつけそうなくらいで、決めるところを決めきれなかった。悔しい。2-2の同点から、ラスト35秒で食らった勝ち越し弾。「試合の中でも押していたんですが」と唇をかむ。優勝した順天堂大との差は、ほとんどなかった。

2年連続の全国準Vは、大阪成蹊大の名を知らしめた。「知名度も上がりましたし、大阪成蹊大でやりたい」という子も多くなってきた。柴沼監督が同大で指導を始めた04年当時、フットサル界はまだまだ雌伏の時。今の業界と比べても、まさに月とスッポンだった。徐々に、そして確かに存在感を示しつつあるフットサル界。その中で大きな実力を誇示している大阪成蹊大の躍進の力ぎは「レスター」だ。

練習は週4、5日×2時間

最大のパフォーマンス出せる強度を計算

徹底管理トレで二度目の正直

ALA田畑副主将

FIXO山崎主将

▲シュートを放つALA田畑寛実



ゴール前への進入を止めるキャプテン・山崎翼(右)

◆フットサルのポジション◆

アラ	ピヴォ	アラ
ALA	フィクソ	ALA
	FIXO	
	ゴレイロ	
	GOLEIRO	

サッカー日本代表・岡崎慎司が所属するプレミアリーグ・レスタ1・シテ。昨年はクラブ創設132年目で初めてプレミアリーグを制している。この名門クラブと実力は練習の頻度がほとんど同じなのだ。練習は週に4、5日、2時間程度です。強度は常に計算しています。それ以上やると、ケガをする。やればよい、食えばいい、という考え方は否定されています。今の時代に即した鍛錬を、部員も頭で理解して行うからこそ、チームは勝ち進める。

去年は自信、今年は悔し。FIXOの山崎翼主将(3年)とALAの田畑寛実副主将(3年)がチームを束ねる。去年の全国準Vで自信がついたからこそ、今年は悔しい。来年に向けては、今年良かった分はさくさく、どこまで強みを増やせるかと山崎が言え、田畑も「同じ相手に2年続けて負けたので、フィニッシュの精度を上げたい」と意気込む。悲願の全国優勝へ。信頼の置ける指揮官とともに頂点へと駆け上がる。

フットサル頭と体フルに使うタフな競技

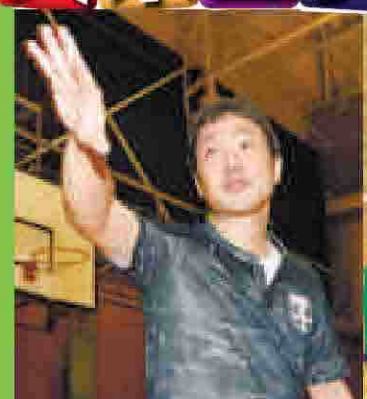
フットサルは肉体的激しいぶつかり合いやボールの奪い合いが繰り返られるため、体の大きい選手が多いチームが有利と思われるが、実は違う。柴沼監督いわく、空間認知能力とストレス耐性、決断力が勝敗に大きく左右される。頭と体のスポーツ、と言って過言ではないのだ。全国の常連、そして勝ち進む大

ポースを決める大阪成蹊大学フットサル部(撮影・椎名航)

来年こそ!!

GK 橋野司

先輩、後輩の垣根がないのが強み。GKの橋野司(3年)もチーム躍進を支えている。「先輩後輩もなく、みんな仲が良い。全国準優勝の理由も「ノリ」と勢もある。意見も言い合えるし、良い意味で上下関係がないこと」だと語った。GKはまさにピッチ上の監督。「ピッチ」の中に入ったら、言うことは言う」ときっぱり。4年生が引退し、さらに責任感が増していくなかでも「1試合1試合を大事にしていくことがチーム力アップにつながるのだ」と、まずは目の前のごとをこなしていく構えだ。



選手に指示を出す柴沼真監督。シュートを止める橋野司



コスパ抜群!!ミートソースパスタ

フットサル部の部員も愛用する図書館3階の食堂「カフェ&ベーカリー」にある各種パスタが学生の人気メニュー。カルボナーラやきのこのこなど種類豊富な中、特に人気の「ミートソースパスタ」(360円、写真)。おいしくリーズナブルなのが支持される理由。カフェ&ベーカリーはランチタイムを過ぎた午後5時まで開いており、学生が有意義な時間をここで過ごしている。

